

## 令和 7 年度第 2 回 FD 研修会が開催されました

3 月 11 日、今年度の第 2 回 FD 研修会として、こころと発達のケア相談室すいみいはうす室長であり、長岡大学学生相談室で臨床心理士をされている佐藤浩平氏の「発達障害のある学生の理解と支援」というテーマで講演が行われました。講演では、合理的配慮に関わる重要な視点から、発達障害(特に、ASD と ADHD の特徴とその違い、それぞれの対応)という解説だけではなく、具体的な事例紹介や学内における支援体制に必要な視点なども教えていただきました。

【日時・場所】2026 年 3 月 11 日(水) 3 限

【教職員参加者数】12 名

講演では、現在、全国の大学などに多く在籍しているものの、なかなか合理的配慮として必要な支援に繋がることが難しい、知的障害を伴わない発達障害についてのお話をいただきました。合理的配慮は、一般的には学生および保護者からの配慮申請から開始されると考えられていますが、佐藤氏は、文部科学省が 2017 年に出した「大学は日頃から学生個々の(障害)特性やニーズの把握に努めること、障害のある学生自ら社会的障壁を認識して正当な権利を主張し、意思決定や必要な申出ができるように、必要な情報や自己選択・決定の機会を提供することなどに取り組むことが望ましい」という文章を引用しながら、本人からの申し出がなくても、支援ニーズがあると思われる学生に対して、話し合いの場をつくっていく必要があるということを強調されました。



当日の FD 研修会の様子

支援ニーズがあると思われる学生を、どのように講義やゼミで見つけて、必要な支援に繋ぐことができるかということは、障害特性を知っていないと難しいこともあります。佐藤氏からは、特に分かりづらい ASD について、社会性の発達・コミュニケーションと、限定された興味やこだわり行動という 2 つの特徴を教えてくださいました。特に、印象に残った点は、これらの 2 つの特性を中核として、気持ちのコントロールが難しかったり、不注意や多動、衝動性、うまく眠れない、運動が苦手という周辺特性に繋が

っているということです。周辺特性は、授業中の居眠りや学生のやる気のなさや落ち着きがないという性格上のものでしてみなされてしまいがちです。佐藤氏からは、具体的ないくつかの事例の話があり、ASDの学生の対応を学ぶことができました。

講演の中で、佐藤氏は、発達障害は、学生自身が困っていることを自己認識できていないケースもあり、支援要請が出しづらい状況があり、周囲の無理解や不適切な対応によって、2次障害に繋がる恐れがあること、そのようにならないためにも、発達特性を理解したうえで、学生の支援体制を組んでいく必要があることを強調されました。そのための学生支援に必要なこととして、発達障害の知識・概念の普及という一次的支援、支援が必要な学生の把握の二次的支援、大学内外各部署・教員との連携・協働といった三次的支援の段階があります。今回の佐藤氏の分かりやすい講演や詳細な資料は、まずは一次的支援が学内の教職員間で浸透し、次の段階である学生の把握に繋がっていくことによって、三次的支援である、すべての学生が安心して学ぶ機会の場づくりである学内外の支援体制の構築の第一歩になるような内容でした。

佐藤氏の講演のあと、講演内容を踏まえた情報交換会が行われました。本学では、曜日ごとに5名の臨床心理士が在籍しています。複数の臨床心理士もいるという長所を生かしつつ、事務局職員・大学教員・臨床心理士が情報共有したり、連携していくことの大切さを実感した情報交換会でした。



情報交換会の様子

### 参加者アンケートより（一部抜粋）/Feedback

#### 【1. 今回の授業の感想をお聞かせください。】

- ・学問的なお話・裏付けとともに現場で必要・有用なお話やアドバイスを多く盛り込んだ講演で大変勉強になりました。
- ・不注意・多動・衝動性がASDにも見られる場合があることを知り、当該学生への対応や助言など、支援の在り方の違いについて理解を深めることができました。ASDの「こだわり行動」をうまく支援に生かすという視点、参考になりました。今回の研修を通じ、こうした知見を組織として蓄積していくことの重要性を改めて認識しました。

#### 【2. 今後開催してほしい研修会やご要望がありましたら御自由にご記入ください。】

- ・本日と同じテーマ（学習障がい・発達障がい学生への対応）の応用編・実践編のような研修を催していただけると有難いです。
- ・発達障がいは外見からわかりづらいため、学内の先生方も気づいておられないケースは多いかと思えます。発達障がい学生に関する研修を引き続き行なって、学内で支援する体制づくりになればよいと思います。